

メディカル講座（後期）

医進類型指定事業の一環として、12月8日（土）に「メディカル講座（後期）」を実施しました。

将来医療に携わる職業を希望している生徒100名余りが、市内だけでなく、遠くは富良野や砂川からも参加し、大変有意義な活動を展開しました。

今回は、講師に旭川医科大学から坂本尚志先生をお招きし、ワークショップを柱に「地域医療」と「臓器移植」について理解を深め合うための学習の方法について講座を行っていただきました。



最初に、坂本先生から「地域医療」の正しい知識と様々なデータ分析に基づいた「臓器移植」の現状について、プロジェクターを使ってご説明いただきました。本日の学習のテーマでもあることから、生徒たちは真剣に耳を傾け、スクリーンに映し出される諸外国との比較データ等を見入っていました。

その予備知識をもとに、参加者は14グループに分かれ、各指定の教室でワークショップを行いました。学年や学校も違うメンバーに最初は戸惑いがちでしたが、自己紹介を終え、互いに共通テーマについて語り合ううちに、雰囲気も和らぎ、



様々なアイデアや考えが沸き起こり、理解をより深め合うことが出来ました。

特に今回の学習のねらいは、学習の方法（＝問題発見の方法）を学ぶことです。知識や技術を身に付けるだけでなく、自らが主体となり、自らの体験や参加者同士の相互作用の中から学んだり創り出したりする作業を行いました。



心や身体を使う「体験」を、様々な作業を通して積み重ねていくことで、参加者の思考がより膨らんでいくのがわかります。同時に体験を共有し、合意形成の必要な共同作業の中で、自分とは違う多様な価値観を学びました。



今回は作業が円滑に進めるため、現役の医学部生にも多数参加していただき、アドバイザーとして各グループの手助けをしてもらいました。各グループでのKJ法やディスカッションの成果は、新たな考えや意見となって現れていました。



最後は、グループごとに話し合いの内容をまとめ、「高校生に臓器移植について理解させる方法」と題し、プレゼンテーションを行いました。他のグループの発表から、また新たな発見を見出します。

今後は、この貴重な体験を日頃の学習にも生かし、学習のクオリティを上げるだけでなく、探究精神を忘れることなく、視野を一層広げてくれることを願います。そして、近い将来、この生徒たちが地域医療を支える中心的役割を担ってくれることを期待したいと思います。

